柏崎元気人登場 なじょだね

熱意と感謝をたっぷり麺に込めて

味の横綱

代表　髙橋一幸氏
柏崎市堀2251-1
Tel.32-3082

十年に一度と言われる大寒波が日本に到来のニュースが流れる中、柏崎市堀にある［味の横綱］さんを訪ねました。外は吹雪の大荒れの天候でしたが、店内は明るく温かい雰囲気です。ランチの時間を過ぎてもお客様が途切れない中、忙しく動き回る店主の髙橋さんにお話を聞くことが出来ました。

髙橋さんは昭和四十六年生まれの五十一歳、若くてマスク越しの笑顔が素敵な印象の方です。快活にお話されるので、会話が弾む楽しい時間になりました。

髙橋さんは長岡市小国町の出身で、現在も小国町武石にお住まいです。長岡向陵高校を卒業後、県外の大学に進学され、奥様は大学の同級生だそうです。お子さんは二人とも大学生で、長女の方は今春から社会人になられるそうで、嬉しそうに微笑んでいらっしゃいます。

何故、柏崎でラーメン店を開業されたのですか？「大学卒業後、漠然と何かしたいと考えていたのですが、何がしたいのか判らず悩んでいる時、長岡市でラーメン店を営む叔父さんから声を掛けてもらい修業をさせてもらったのがきっかけです」と、特別に強い熱量があった訳ではないそうです。「二十四年前に柏崎を見て、大学が二つもあるのに、遊ぶ所も食べる所もない事に気づき、自分なら美味しく食べてもらえる場所が作れると思ったから」と優しい気持ちが溢れています。開業する際、周りからは反対の意見が多くあったそうですが、むしろその言葉に奮起したと笑顔で答えます。学生の為、地域の為と思う気持ちがモチベーションに繋がるのでしょう。

メニューを拝見すると、「おすすめは白ラーメンですが、大学生や地元のお客様の要望に応えていたら、味のベースが色々と増えてしまった」と笑みを浮かべます。柏崎で水球を応援するイベントが有れば、積極的にメニューを開発しています。

また、社員さんへの指導にも熱心で、当時［味の横綱］で働いていた新澤さんが［らぁ麺てっぺん］として、独立するまで面倒をみたそうです。何に対しても、一生懸命に取り組まれる方だと思います。

「仕事は朝早くから夜まであり、趣味が無くて今から心配です」と自分からコメントしていただきましたが、Twitter・Instagram・Facebook等で、多くの方と繋がって情報を共有されている様子は、とても楽しそうに思えたので心配無用な気がします。座右の銘をお聞きすると、「継続は力なりです。高校の恩師から頂いたメッセージを大切にしています」とさらりと言う姿はカッコイイです。

「二十四年間も地元の方に愛されるお店を続けて来られた事は、本当に感謝しかありません。中越沖地震やコロナ禍の波に襲われながらも、助け合う気持ちが大事だと思っています」と、締めていただきました。

（十人衆㊗・㊐取材）

柏崎元気人登場 なじょだね とは……？

当紙に掲載している『柏崎元気人登場 なじょだね』は、柏崎地域の事業所を取材に行き、代表者の人となりや会社に込める想い、どのようなお仕事を行っているかなどをご紹介するコーナーです。

取材には、商工会議所の会員で、会議所と会員の皆様とのパイプ役として活動を行っている小規模企業振興委員会の中から十名の方より『なじょだね編集委員』を務めていただき、毎月分担しながら取材・原稿作成を行っています。

様々なお仕事で活躍されている会員の方々をご紹介していきますので、ご期待ください。